

新型コロナウイルス感染症に対する医会のアピール

人類の歴史は「感染症との戦い」と言っても、過言では無い。
漢方の原典である『傷寒雑病論(西暦 196 年頃・張仲景 著)』の序文に、著者の一族 200 余名が今の腸チフスと推定される“傷寒”にかかり、その 3 分の 2 が亡くなったとある。著者はこの経験を元に、感染症の治療法である傷寒雑病論を確立し、感染症に表れる病態やその適応処方を記しており、現代にも実地医家に活用されている。

さて、江戸時代に、梅毒、天然痘、結核、マラリアやコレラ等の感染症が流行した際は、原因不明の疫病として、漢方治療を行った。現代のように「感染症には、抗生物質」と安易に使える時代ではなかったからだ。感染症を詳細に観察して、最適な効能・効果を引き出せる薬剤を選んで治療した時代だった。

未知なる病気には、今でも、なす術もないのが現状である。幸いにも漢方は、過去の治療文献から、非常に高い効果をあげたコレラの流行事例を知ることが出来る。コレラの後も、100 年前のスペイン風邪然り、エボラ出血熱、HIV、プリオン病などの感染症が世界を襲った。

現在、恐れられている新型コロナウイルス感染症は、未だ日本では、他国で見られる様なパンデミックには至っていないが、交通手段の発達が感染拡大を助長しており、当然何時パンデミックになってもおかしくない状況である。現在の世界的伝播を考えても、重大な局面を迎えている事は確かである。

さて、漢方には、“治療”と、常日頃から病気にならない為の“養生法”とがある。

漢方治療が新型コロナウイルス感染症の全過程に有効に対応できることは、コレラの流行等の史実から分かる。感染症の基本的な診断法は、まず、生体反応を的確に捉え、病邪を排除する免疫能や感染防御能を高める薬剤の選択に懸かっており、当会では、漢方家庭医講習会のみならず、独自の動画コンテンツの作成も行い、治療に役立つ情報を提供している。更に病気に罹らない為の養生法の活用等を勧めている。

温故知新という言葉があるように2000年の漢方治療の歴史は、必ず国民の健康を死守し、この難局を打開して行くと確信している。

常日頃から、国民の健康と安全に配慮されている政治家各位は、日本の伝統医学である漢方がいかに国民の健康に寄与してきたかという歴史的な事実を熟知されていよう。

感染症に罹らず健康な身体を維持し、未病を防ぐ力もある漢方薬は、豊富な臨床知見を持っており、その活用が俟たれている。罹りづらくする体力、気力、免疫力の増強と感染後の後遺症治療には最適である。これからの医療を変えて行く上で必要不可欠なものであり、漢方は国民の宝でもある。

それには、国民の誰もが受診出来る「国民皆健康保険制度」の維持と「医療用漢方製剤の医療保険からの給付除外の流れ」を未然に防ぐ必要がある。

当会は、漢方の有用性を多くの国民に広め、漢方の価値を認識して頂く為の教宣活動がこれからも重要な使命と考えている。

全国民の皆様のご協力、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます次第である。

日本臨床漢方医会 理事長 石川友章